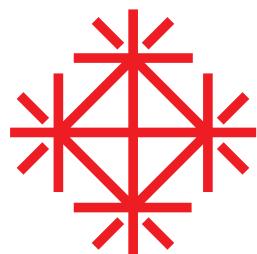




お米と。あなたと。

精米後、光学色彩選別機での品質確認



KITOKU SHINRYO
木徳神糧

第78期
中間株主通信

2025年1月1日～2025年6月30日

CONTENTS

木徳神糧ってどんな会社	01
連結財務ハイライト	02
トップインタビュー	03
株主様インフォメーション	06
会社概要・株式情報	09
特集	10
イベントのご報告・商品紹介	裏表紙

木徳神糧ってどんな会社？

経営理念

コメビジネスを軸に世界中の消費者にコメとコメ関連食品の素晴らしさを発信し、健康で楽しいライフスタイルの実現をサポートします。

中期3ヵ年経営計画（2023年12月期～2025年12月期）

事業規模・事業領域の拡大に向けた体制再構築の期間とし、
収益体制を作りながら成長を図る

コメビジネスの拡大

- 多収・高温耐性品種と生産効率化で産地と協力し仕入基盤強化
- UMBP商品のブランディングと拡販
- 海外法人を活用した海外マーケット開拓

コメ関連ビジネスの成長

- 飼料事業・鶏卵事業の持続的成長で米穀事業への依存度を下げる
- 新商品・新規事業の具体化に向けた着実な取り組み

企業の成長の土台作り

- 人的資本経営の強化
(ベースアップ、等級要件やスキルマップ等の見直し)

当上半期の取り組み

「次世代を育む研修の推進」

当社は中期3ヵ年経営計画における重点テーマ「企業の成長の土台作り」のもと、人材育成に注力しています。当期は、毎年恒例の新入社員農業研修に加え、OJT研修や企画力向上研修、階層別研修などを実施しました。新人から中堅、管理職まで、社員同士が価値観や課題を共有し、それぞれが役割を意識して成長することで、組織全体の活性化につなげています。

今後も継続的な研修を通じて、個人と組織の相乗効果を高めながら、次世代を担う人材の育成に取り組んでまいります。



管理職研修

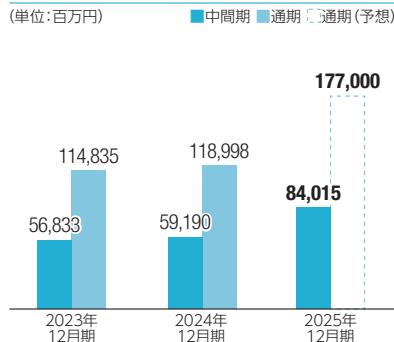


新入社員農業研修



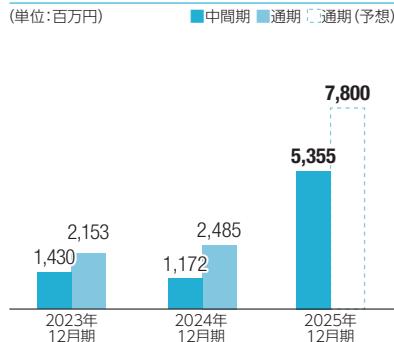
売上高

(単位:百万円)



経常利益

(単位:百万円)



親会社株主に帰属する中間純利益

(単位:百万円)



米穀事業



売上高 **72,177**百万円
(前年同期比 48.9%増)

営業利益 **5,484**百万円
(前年同期比387.3%増)

- 流通全体が大きく混乱する状況のなか、政府備蓄米を活用し安定供給と迅速な流通の両立を最優先に取り組んで強いニーズに対応。調達原価の高騰によって販売単価が前年を大きく上回る水準で推移し、価格転嫁も順調に進んだ結果、増収増益



飼料事業



売上高 **5,000**百万円
(前年同期比 2.5%増)

営業利益 **239**百万円
(前年同期比 9.4%増)

- トウモロコシ価格の下落に伴い国内の飼料原料相場が軟調に推移するなか、輸入乾牧草および糖糠類の販売拡大に注力した結果、販売数量が伸長し、増収増益



鶏卵事業



売上高 **5,290**百万円
(前年同期比 25.4%増)

営業利益 **133**百万円
(前年同期比 16.0%減)

- 鳥インフルエンザの発生を主要因とした供給量の減少に伴い、鶏卵相場が高値圏で推移したことで増収
- 仕入価格の上昇に対してお取引先への価格転嫁が一部遅れたことから減益



食品事業



売上高 **1,546**百万円
(前年同期比 5.0%減)

営業利益 **41**百万円
(前年同期比 50.2%減)

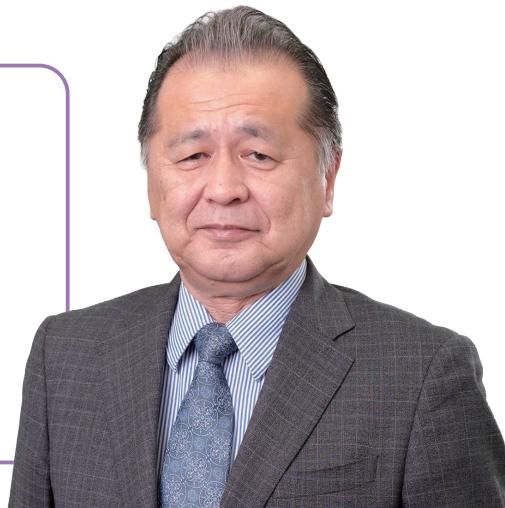
- コンビニエンスストア向けや製パン用途向けの穀粉販売は堅調に推移して一定の売上を維持した一方、米菓向け加工用原料米の販売が伸び悩み、さらに米不足による原料価格の上昇が続くなか、価格転嫁の反映に遅れが生じたことで減収減益





米穀卸の社会的責任を果たすため 中長期的視点で経営基盤強化に 取り組みます。

代表取締役社長 鎌田 慶彦



Q 2025年12月期上半期の業績について、
米不足の影響とともに教えてください。

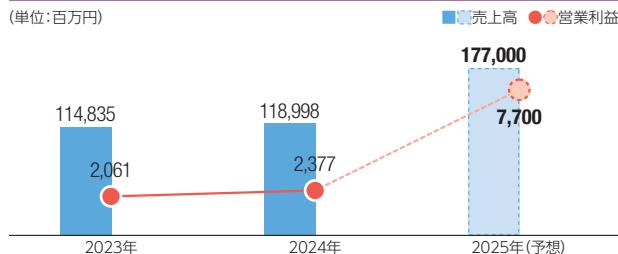
A 環境の急激な変化に加えて効率化の成果も
あり、大幅な増収増益となりました。

当上半期においては、全国的な米不足と流通の混乱によって「令和の米騒動」と呼ばれる事態になりました。当社は、木徳神糧グループの社会的使命と認識している米の安定供給を最優先に、多様な仕入先からの調達や、放出が始まった政府備蓄米を活用し、総力を挙げて工場での精米と全国への迅速な出荷に努めました。仕入価格の変動を適時適切に販売価格に反映させていただくことができたことに加え、米不足によって店舗における特売が減少したことなども今回の営業利益の増加の主な要因となりました。これほどの大幅な増益は環境変化による限定的な事象と考えていますが、営業利益の増加は、長年続いた「米余り」環境下で

薄利多売の構造的な低収益体質を改善するために取り組んでおり、本牧工場を閉鎖し桶川工場に集約するなどの、製造効率の向上や製造コストの低減努力の成果でもあり、今後も収益の安定化を見据えて構造改革に取り組み続けてまいります。

業績推移

(単位:百万円)



Q 「令和の米騒動」を経て、
改めて当社の役割を教えてください。

A 多くの方に必要とされるお米。
その流通を支えることが最大の使命です。

今回の米不足は、記録的猛暑や豪雨による収穫減・精米歩留まりの悪化、生産コストの上昇、インバウンド需要や物価高による消費の増加、さらにはひっ迫感を受けた買い急ぎなど複合的な要因が重なった結果だと捉えています。

当社は引き続き「必要なお米を必要な方へ確実に届ける」という企業としての使命に取り組んでまいります。その第一は安定的な調達です。近年の猛暑、大雨、渇水等によってコメの収穫量と品質が変動するという課題に対し、当社は「にじのきらめき」を中心とした高温耐性・多収性に優れた銘柄の普及を進めています。高温障害による収量減少をリスクと捉える生産者が多いなか、生産エリアは着実に広がっています。そして、生産者に米を作っていただく一方で、調達したコメを安全・安心な製品として迅速に出荷・販売してこそ、安定供給が実現します。工場での品質・衛生管理を徹底するとともに、会社のガバナンス体制も含めて、消費者に安心して買っていただける体制を強化してまいります。

また、安定的な調達を維持するには、農家が稲作を継続できる再生産価格を確保することが重要です。今回の事態で消費者の皆さまに、米の価格についてさまざまな見方があるという認識が広まったと感じますが、正常な価格形成の促進は、消費者にとっても公正かつ多様な選択肢を得ることにつながります。当社としても、消費者にとって買いやすく、生産者にとって将来にわたって米の生産を継続できる価格を目指して流通に携わってまいります。

さらに当社は従来から米国やタイなどから外国産米を輸入し、食文化の多様化に貢献してまいりましたが、国産米の供給リスクが残るなか、日本国内における外国産米への一定の需要は継続しており、消費者の選択肢を増やす取り組みとして、ニーズに応じた販売を行ってまいります。

今回の「令和の米騒動」では「卸が米を買い占めている」「複数の中間業者がマージンを取る多重構造で価格が高騰している」といった誤解も見受けられましたが、当社の米穀事業は、「全農を中心とした集荷業者から玄米を仕入れ、精米工場で精米し、実需に販売する」というシンプルなものです。大半の販売先はお米が穫れる前に決まっており、不適切な行為は一切ありません。一方で、今回の件は日本人の米への関心の高さを改めて示しました。当社は、精米機能を持つ米穀卸の社会的役割の重要性と存在意義を再認識し、今後も取り組みを進めてまいります。

※米流通についてはP10特集「米穀事業徹底解説」もご参照ください。

Q

中期経営計画の進捗と今後のテーマを教えてください。

A

最終年度までの成果を、次期中期経営計画につなげてまいります。

現中期3ヵ年経営計画では、営業利益率1%以上という最終年度目標を2年目で達成しました。米穀事業については仕入基盤の強化に加え、化石燃料の使用量削減や節水につながる新たな無洗米加工方式「UMB



(ウルトラマイクロバブルプロセス)」を各精米工場に導入し、ブランド化、拡販を進めています。海外では、連結子会社であるベトナムのアンジメックス・キトク(AKJ)、中国の木徳(大連)貿易、タイのキトク・タイランドの売り上げも好調に推移し、ベトナムでは海外初となるUMBPを導入し、高評価を得ています。飼料・鶏卵事業においても、米穀事業と連携して新たな販売先を開拓し、順調に業績を伸ばしています。

私は社長就任以来、「事業領域の拡大」をテーマに掲げ、会社横断的な情報共有やアイデアの発案を推進してまいりました。その結果、新規事業を開拓する基盤が構築されつつあると感じています。一例がUMBPで発生する副生水(米のとぎ汁)の資源化への取り組みで、肥料化・飼料化・バイオマス燃料化など、多角的に事業の可能性を調査・研究しています。次期中期経営計画においては当社グループが有する経営資源をさらに発掘・活用し、事業領域拡大への取り組みを深化させることを目指し、計画の策定に着手しています。

Q

ステークホルダーへのメッセージをお願いします。

A

グループ全体の成長を通じ、より多くの皆さまの期待に応えてまいります。

今回の「令和の米騒動」を通じて頂戴したさまざまなご意見を真摯に受け止めると同時に、多くのステークホルダーの皆さまからの「木徳神糧がんばれ」という温かいご声援に深く感謝しております。折しも、当

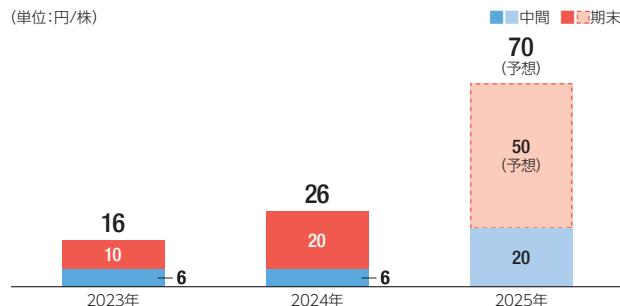
社は2025年7月には株式分割を行い、より保有していただきやすい環境を整えました。また、8月の第2四半期決算開示のタイミングで年間業績予想を上方修正するとともに、増配を決めました。この局面において株主様への利益還元は重要と捉えており、将来の設備投資と内部留保の充実も踏まえた上で、業績に応じた配当を行ってきたいと考えています。

一方で、多くの皆さまの期待に応えるためには、人的資本経営を通じた当社グループ全体の成長が不可欠です。現中期経営計画期間には公平なベースアップに加え、育児・介護休業制度の拡充や有給休暇を時間単位で取得できる制度の導入、障がい者雇用の推進、研修の充実、譲渡制限付株式制度の導入など、さまざまな人材への施策を行っています。さらに基本的なこととして、社員への木徳神糧の理念やルールの浸透、徹底したガバナンスの強化が重要であると認識しています。

今後も「米を通じて社会に貢献する」という使命のもと、役職員一同で事業に邁進してまいります。皆さまには引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

配当金推移 ※株式分割後換算

(単位:円/株)



2025年7月1日付で、普通株式1株につき5株の割合で株式分割を実施しております。本グラフは、株式分割後の基準に換算した数値を記載しております。



株式分割に伴う株主優待制度変更のご案内

2025年5月8日に株主優待制度の一部変更を決定いたしました。この一部変更は、2025年7月1日を効力発生日として実施する株式分割に伴うものであり、実質的な変更はございません。

変更後の株主優待基準

6月末現在の株主さま (10月頃発送、切り餅は12月中旬発送)

1,000株以上2,000株未満

2,000円相当の米穀製品等 または社会貢献活動に対する寄付*1

2,000株以上

4,000円相当の米穀製品等 (うち2,000円相当は「切り餅」)
または社会貢献活動に対する寄付*1

*1 社会貢献活動に対する寄付をお選びいただいた場合、優待相当額と同額を当社名義にて寄付いたします。

12月末現在の株主さま (3月頃発送)

500株以上かつ継続保有3年未満

2,000円相当の米穀製品等

500株以上かつ継続保有3年以上*2

4,000円相当の米穀製品等

*2 3年以上継続保有とは、6月末日と12月末日の株主名簿に変更後の保有株式数で換算して500株(5単元)以上の保有が、同一株主番号で連続して7回以上記載または記録されていることとします。

株主優待内容

米穀製品等を年2回を贈呈いたします。

6月末現在の株主さまは、社会貢献活動に対する寄付をお選びいただくこともできます。寄付をご希望の場合は、8月頃にお送りする申込ハガキに必要事項をご記入の上、ご返送ください。



※画像はイメージです。詳細については、株主優待に同封されるご案内をご確認ください。



第77期株主通信 アンケート結果

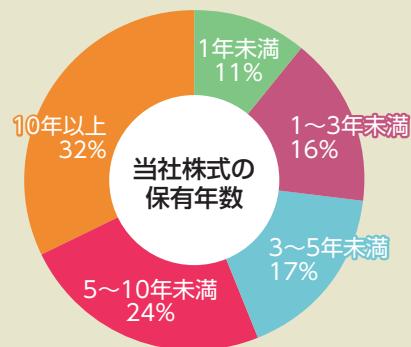
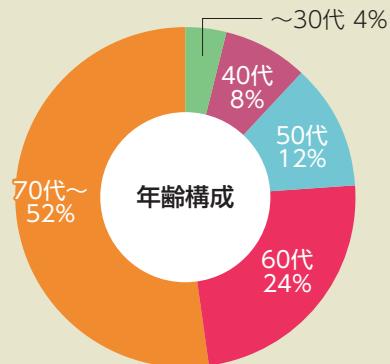
実施期間

2025年4月3日から5月23日まで

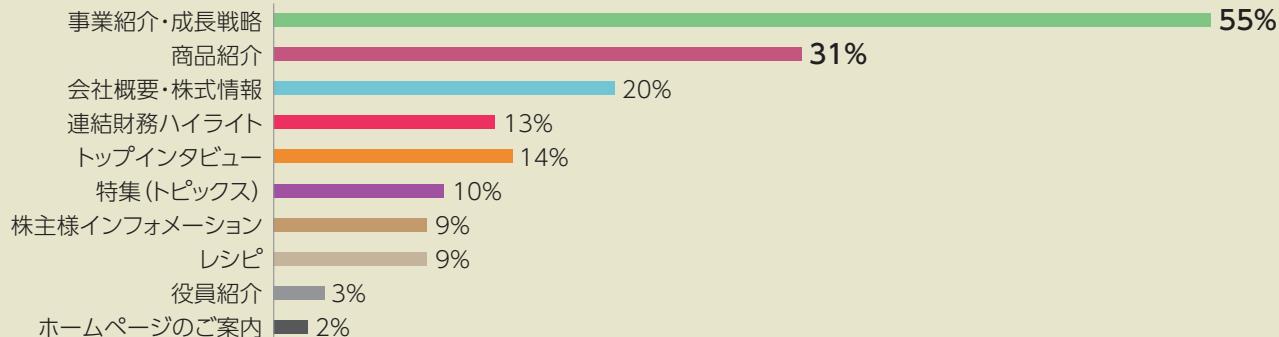
ご回答数

338通 (返送率13.1%)

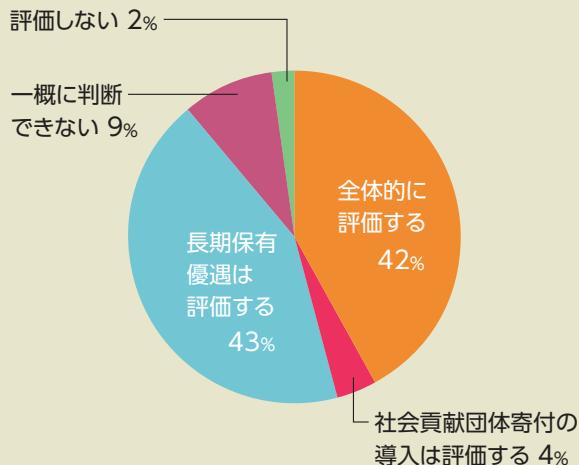
アンケートへのご協力
ありがとうございました。
いただいた貴重なご意見を、
今後の当社経営やIR活動に
活かしてまいります。



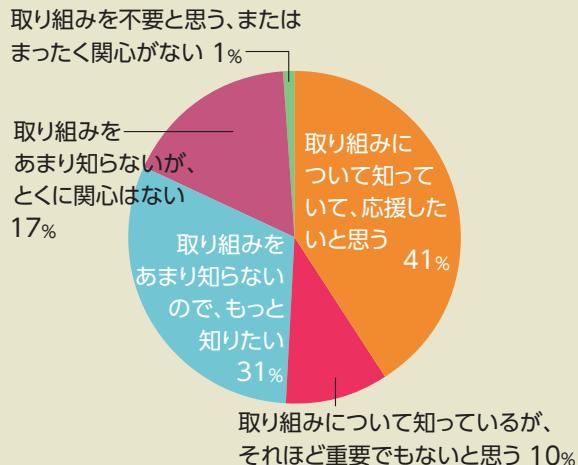
株主通信でもっと充実して欲しい記事をお聞かせください。(複数回答可)



株主優待制度の変更（優待内容見直しおよび長期保有優遇）を評価しますか。（新規設問）



当社の社会貢献活動の取り組みについて1つお選びください。（新規設問）



株主様のご意見にお答えします

長期保存ができるお米を初めて見ました。
災害時用に置き置しています。

（岡山県・50代女性・主婦）



ご利用いただきありがとうございます。当社の「長鮮度米」は、未開封で6ヶ月間の長期保存が可能です。お米自体に保存加工はせず、特別な包装で長期間保存ができるようにしているため、美味しさが長持ちします。万が一の災害に日常から備える回転備蓄「ローリングストック」にも是非お役立てください。

お米不足と高値が続きますが、貴社の成長に期待しています。優待品とても助かりました！

（東京都・60代女性・主婦）



温かいお言葉をありがとうございます。当社も調達に苦慮する厳しい状況の中で、株主優待を通じて少しでもお役に立てたこと、大変嬉しく思います。今後も米穀事業を始めとした各事業の持続的な成長を見据え、来期からの中期3カ年経営計画を策定してまいります。

近くの公民館での子ども食堂にボランティアで何回か参加したことがあります。『にじの架け橋』キャンペーンはとても大切なことだと思います。

（神奈川県・60代女性・主婦）



心温まるご活動、そして当社の取り組みにご共感いただき誠にありがとうございます。中四国支店で実施した、販売数量に応じたお米を子ども食堂に寄付する『にじの架け橋』キャンペーンは、地域の未来を支える取り組みです。今後も社会とのつながりを大切にしながら、継続的な支援を行ってまいります。



会社概要・株式情報

(2025年6月30日現在)

Corporate Data

一 会社概要

商 号 木徳神糧株式会社

事業内容 米穀、飼料、鶏卵、その他食品等の仕入、加工、販売並びに輸出

本社所在地 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-8
木徳神糧小川町ビル
TEL：03-3233-5121(代表)
FAX：03-3233-5131

資本金 5億2,950万円

従業員数 278名(臨時雇用者を除く)

ホームページ <https://www.kitoku-shinryo.co.jp>

一 株式情報(株式分割前)*

- ① 発行可能株式総数 6,000,000株
- ② 発行済株式の総数 1,706,000株
- ③ 株主数 2,685名
- ④ 大株主

株主名	所有株式数	持株比率
木村 良	100千株	6.11%
濱田精麦株式会社	82	5.03
株式会社神明ホールディングス	80	4.88
大和産業株式会社	70	4.27
全国農業協同組合連合会	60	3.66
株式会社三菱UFJ銀行	60	3.66
株式会社三井住友銀行	37	2.27
農林中央金庫	37	2.27
木徳神糧従業員持株会	35	2.18
ヤマエク野株式会社	30	1.87

(注) 1. 所有株式数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
2. 持株比率は、自己株式(69,978株)を控除して計算し、小数点第3位を切り捨てて表示しております。

*2025年7月1日の株式分割(1株を5株に分割)に伴い、株式分割後の発行可能株式総数は30,000,000株、発行済株式の総数は8,530,000株になっております。

一 役員等

代表取締役社長	鎌田 慶彦	(執行役員)	
取締役会長	竹内 伸夫	上席執行役員	内田 英一
取締役常務執行役員	稲垣 英樹	上席執行役員	金子 泰彦
取締役常務執行役員	管 益成	執行役員	郡司 和久
取締役執行役員	山田 智基	執行役員	中田 基春
取締役執行役員	今野 稔	執行役員	鈴木 敬夫
取締役執行役員	鈴木 平	執行役員	小松 功明
取締役(社外)	柏原 幸代	執行役員	龍神 崇
監査役(常勤)	谷本 和則	執行役員	竹井 勝
監査役(社外)	鈴木 昌治		
監査役(社外)	尾崎 達夫		
名誉会長	平山 惇		
名誉顧問	木村 良		

一 連結子会社

アンジメックス・キトク有限公司
Highway 91, Thanh An Village, My Thoi Ward, An Giang Province, Vietnam
代表取締役会長 平山 惇

木徳(大連)貿易有限公司
中華人民共和国遼寧省大連市中山区武漢街73号城市広場B座1003室
董事長 平山 惇

キトク・タイランド会社
15th floor, Sathorn Thani Building 190/40-41 North Sathorn Road, Silom, Bang Rak, Bangkok 10500, THAILAND
代表取締役社長 平山 惇

株主メモ

事業年度 1月1日から12月31日まで

定時株主総会 毎年3月に開催いたします。

基準日 定時株主総会については12月31日、その他必要があるときはあらかじめ公告する一定の日

配当金受領株主確定日 12月31日および中間配当金の支払を行うときは6月30日

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町1-1
電話 0120-232-711 (通話料無料)
郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

上場証券取引所 株式会社東京証券取引所

公告方法 電子公告(ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。)

当社の米穀事業は、日本の「お米を中心とした食文化」を支える基幹事業であり、グループ全体の売上の約8割を占める中核セグメントです。各産地から集荷した玄米を自社精米工場で加工し、スーパー、コンビニ、生協などの家庭用向けに加え、外食・中食事業者や食品メーカーなど業務用のお取引先に向けて、年間を通じて安定的に供給することが主なビジネスです。

近年、国内の米流通において、価格高騰や品薄といった状況が発生しています。その背景には、猛暑による収穫量の減少や高温障害による品質低下、インバウンド需要の増加、消費者の購入経路の多様化、さらには精米能力や物流体制の限界など、複数の要因が重なっています。こうしたなかで、全国からお米を調達、自社工場で精米し、実需と直結した販売を行う「精米卸」としての当社の安定供給体制が、あらためて注目されています。

当社では、猛暑など気候変動の影響に対応する取り組みとして、高温耐性と多収性を備えた「にじのきらめき」などの品種の栽培を、生産地に対して積極的に推進しています。

生産者・生産法人・JAに種子を提供し、収穫されたお米を当社が買い取る仕組みを通じて、環境変化に対応する米づくりを生産地とともに拡大しています。

また、環境配慮の対策の一つとして、無洗米加工時に発生する米のとぎ汁の資源化にも取り組んでいます。自然由来の肥料原料と組み合わせることで、資源循環型の農業に貢献する商品化を進めており、持続可能な農業への多様な関わり方を模索しています。

さらに、当社は単なるお米の売買にとどまらず、米加工品の開発・販売にも注力しています。業務用・家庭用の米粉、たんぱく質調整米、パックごはん・おかゆ、こめ油など、多様なニーズに応える商品を幅広く展開し、付加価値の創出にも取り組んでいます。

今後も、産地・生産者に寄り添う営農支援を通じた安定調達体制の構築と環境配慮の取り組みを強化し、安全・安心なお米を必要な方へ届ける米穀流通の要として、日本の食文化と農業を支えてまいります。

米の流通と当社の役割



米の流通において“精米卸”が担う役割

※単に米の売買だけではなく、自社工場で精米し実需に直接販売することを主要な事業とする米穀卸(当社見解)

品質管理	精米・選別	包装	安定供給
<ul style="list-style-type: none"> 安全な製品を提供するため、原料の受け入れから出荷まで、徹底した品質・衛生管理を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 入荷した玄米の状態に合わせた精米 混入している異物(ガラス、石、金属、被害粒等)の除去 無洗米加工時に発生する米のとぎ汁の資源化 	<ul style="list-style-type: none"> 取引先のニーズに合わせた荷姿で、適切な食品表示を施したパッケージに包装し、出荷 	<ul style="list-style-type: none"> 一年一作のお米を、需要に基づき計画的に調達・販売 高温耐性を持つ多収品種の栽培拡大

仕入先(生産者)から販売先(実需者) & 消費者までの継続的なかけ橋となる役割

イベントのご報告

当社は、長年にわたり販売しているタイ香り米の魅力を広く発信するため、タイ王国大使館主催の「タイフェスティバル」に出展しました。5月は東京・代々木公園、6月は名古屋・久屋大通公園で開催され、多くの来場者が訪れました。

本イベントは、タイ文化と食の魅力を紹介する祭典で、当社ブースでは、タイ香り米の試食や特設展示に加え、3,000円以上お買い上げの方にエコバッグやエプロンを進呈するキャンペーンを実施し、多くのお客様にタイ香り米の魅力を直接お伝えする機会となりました。

今後も、当社とタイとのつながりを活かした取り組みを通じて、ブランド価値のさらなる向上と新たな顧客層へのアプローチを積極的に進めてまいります。



タイ香り米と
ライスベリーのを使用したカオマンガイ



ゴールデンフェニックス限定エコバッグ



タイフェス東京の当日の様子

商品紹介

本格エスニック需要を捉えた新商品「バスマティライス」販路拡大中

バスマティライスは、タイ米よりもさらに細長い粒形と芳醇な香りを持ち、ふわっとした軽やかな食感が特長のインディカ米です。ビリヤニやカレー、ピラフなど、本格的なエスニック料理に最適で、近年ではコンビニエンスストアのお弁当メニューにも使われるなど、注目度が高まっています。

当社は、パキスタン屈指の大手精米業者であるガリブソンズ社の「ムガル(Mughal)」ブランドのパキスタン産バスマティライスを商品化。家庭用200g入りパッケージは、カルディコーヒーファーム約300店舗にて販売を開始し、本格派のエスニック料理を好む多くのお客様からご好評をいただいている他、多数の輸入食品スーパーへも導入され、さらなる販売拡大が期待されます。

また、業務用としては、コットン袋入りの5kgパッケージが人気パキスタン料理店「ナワブ」や「シディーク」で正式採用されており、プロの料理人からも支持を得ています。



家庭用200g
パッケージ



業務用5kgパッケージ



ビリヤニ

バスマティライス
商品紹介WEBページも
ぜひご覧ください



木徳神糧株式会社

〒101-0052
東京都千代田区神田小川町2-8 木徳神糧小川町ビル
TEL : 03-3233-5121 (代表) FAX : 03-3233-5131



見やすいユニバーサル
デザインフォントを
採用しています。



環境に配慮した
植物油インキを
使用しています。

